

ぎくがい



2017.10.17

小国町議会だより 第**134**号

大
銀
杏
と
と
も
に



◆小国町天然記念物第3号◆
飛泉寺のイチョウ

表紙関連記事は16ページ

主な内容

- 決算審査特別委員会 4～5ページ
- 一般質問 5名登壇 7～11ページ
- 委員会活動報告 12～15ページ

平成28年度
決算を認定

地方交付税は減収

9月定例会

平成28年度主な事業

- 防災情報伝達システム整備
3億6452万円
- 6次産業化・地産地消推進事業
1603万円
- 子育て支援医療(町単独分)
1169万円
- 情報通信技術(ICT)教育活用事業
1907万円
- きのご産業づくり推進事業
5192万円

平成28年度決算の特徴は、次のとおりである。

- ☑実質単年度収支は、3億7522万円の黒字となった。財政調整基金へ1億8019万円を積み立て、基金残高は10億1033万円となった。
- ☑給与所得の回復等により町税は840万円の増となった。
- ☑最大財源の地方交付税は、30億6585万円。前年度比4461万円

の減額となった。

- ☑財政健全化法に基づく財政指標は、国の指標をクリアしており「健全」と判断。
- ☑防災情報伝達システム整備により、町債残高が増加した。
- ☑子育て支援の強化、畜産規模拡大支援、きのご産業づくり推進、ICT教育の導入等、実効ある予算編成を行い、事業の実施に当たってきた。

防災情報伝達システム整備 きのご産業づくり推進

9月定例会のあらまし

9月定例会が9月7日から15日までの9日間の会期で開催されました。

第1日目に補正予算案4件、条例改正案1件が上程されました。

また平成28年度会計決算認定12件が一括上程され決算特別委員会に付託されました。

第1日、2日目に5人の議員が一般質問を行い町政をただしました。

第2日目以降、決算特別委員会を開催し、議案を審議しました。

最終日に、補正予算、付託した決算認定を原案通り可決し、請願2件の審査報告の後、意見書3件を可決し閉会されました。

主な基金の残高

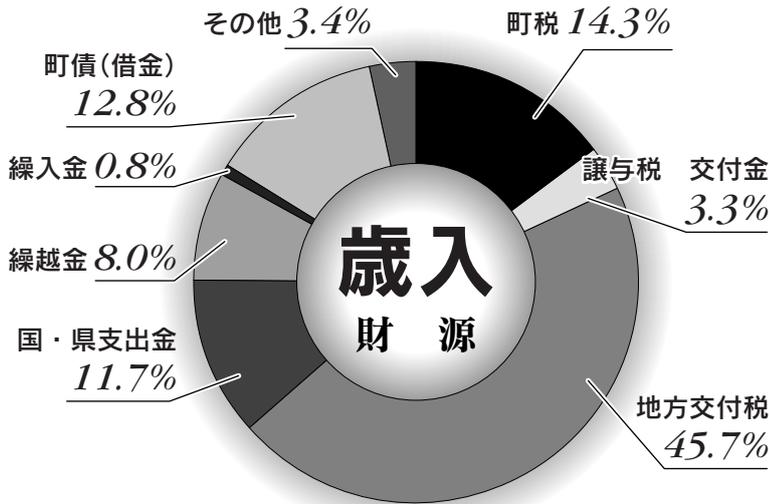
財政調整基金	減債基金
10億1033万円	6189万円

(平成28年度)

平成28年度
決算認定

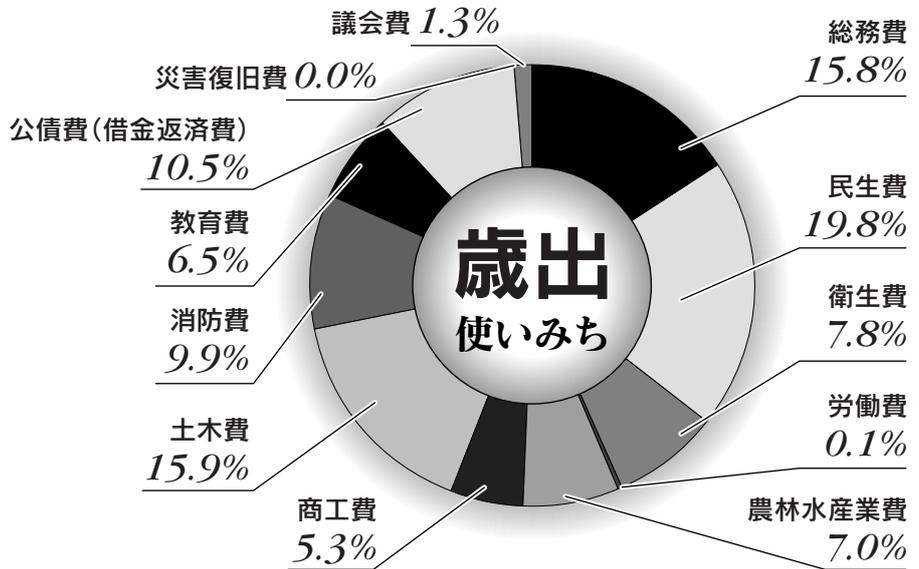
町税は増収するも

67億1389万円



一般会計 決算

63億3867万円



平成28年度の一般会計決算は、歳入総額67億1389万円に対し、歳出総額63億3867万円で、3億7522万円を次年度に繰り越した。貯金にあたる基金残高は約22億円、借金にあたる町債残高は約90億円ある。

第5回臨時議会が8月1日に開催された。
町道松岡黒沢峠線黒沢橋上部工事申請負契約の締結について議案が提出され、全員賛成で可決した。

臨時議会

任期 平成29年10月1日から平成33年9月30日まで。

教育委員会委員
佐藤 修治(再任)

平成29年9月30日に任期が満了となる教育委員会委員の任命について、全員賛成で同意した。

人事

質疑応答

◆決算審査特別委員会◆

〈委員長〉遠藤和彦 〈副委員長〉今康成
 〈委員〉安部春美 伊藤重廣 小林嘉 小関和好
 石山久美子 間宮尚江

総務企画課

Q 域学連携事業は、活動の継続性が重要である。学生が毎年異なる中、結果を活かすための工夫は何か。

A 本事業を通じて早稲田大学に「いぐへおぐに」という小国に関わる活動を行うサークルが結成され、下級生へとつながれてきている。活動と共に事業の継続性を確保しながら取り組みを展開している。

町民税務課

Q 熊本地震の際、熊本県小国町に対し支援物資を送っている。その後当町の備蓄状況は。また備蓄の基準はあるのか。

A 義援物資に係る予算の残分で補充している。備蓄数量は、ハザードマップ作成の際に算定した想定避難者数や町・県防災計画を基に、490名の3日分としている。

産業振興課

Q 現在16基の警鐘台が残っている。今後も計画的に解体を行っていく。

A 有害鳥獣被害対策の被害状況、捕獲頭数と具体的な支援は。

Q 畑の野菜類に被害が発生している。クマの捕獲許可は35頭、捕獲は26頭、サルの捕獲許可は225頭、捕獲は83頭。国の補助制度を利用し15頭を上限にサル1頭あたり8千円の報奨金を支援している。

Q 移住交流推進事業で、同窓会利用者へのアンケートを実施しての成果は。

A 小国町へのUターン意向等について伺った。移住につなげるための必要な情報をまとめ、パンフレット等に活用している。また、登録いただいた方には継続して情報提供している。

地域整備課

Q 署と連携を持ち実施していく。

Q 河川愛護デー雨天中止後、除草作業等は行われたのか。

A 「きれいな川で住みよくなるさと運動」は、あくまで地区主体で行っているので別の日に実施している地区もある。

Q ストレスチェック委託業務とは。

A 職員のストレス度をアンケート形式で問診し、委託先に判定してもらおう。結果は個人通知される。高ストレスと判定された人は、産業医に個人相談できる。

Q 3基の警鐘台を解体しているが、残りは何基あるのか。



域学連携の学生たち



山形DC(ディスティネーションキャンペーン)

Q 観光キャンペーン推進事業の成果はあったのか。

A これまでは山形DCの推進に取り組んできたが、今後の推進は他の部

Q 水道事業会計で、年間有収率68・8パーセントは漏水が原因であるということだが、水道料に転嫁されるのか。

A 長沢地区から針生区間の石綿セメント管の老朽化による漏水が原因であるが、新水源地の整備に伴い改善されると期待している。漏水による水道料金への影響はない。

平成29年度 各会計補正予算

補正 予算

会計別	歳入歳出予算	議決の内容
一般会計 (第2号)	61億8010万円 (2億4814万円を追加補正)	全員賛成により 可決
下水道事業特別会計 (第1号)	3億7451万円 (844万円を減額補正)	全員賛成により 可決
介護保険特別会計 (第2号)	9億9027万円 (2582万円を追加補正)	全員賛成により 可決
水道事業会計 (第2号)	8625万円 (13万円を追加補正)	全員賛成により 可決

平成29年度一般会計ほか3会計の補正予算が上程された。
一般会計では、次期総合センター整備に係る建設予定地の地形・地質調査、木質バイオマス利用拡大に向けた可能性調査を行うなどとした。

平成29年度一般会計補正予算(第2号)の主な内容

(歳出)	
役場庁舎維持補修工事	1099万円
次期総合センター測量・調査委託料	945万円
農業担い手育成事業	480万円
木質バイオマス導入可能性調査委託	1395万円
(歳入)	
地方交付税	1934万円
県補助金	85万円
前年度繰越金	2億2239万円
町債(借入金)	△530万円

コメの需給と価格の安定へ 政策の充実を

請願

請願名	請願者	請願の要旨	付託委員会	本会議採決結果
平成30年産以降の米政策の見直しに関する意見書提出方請願	山形おきたま農業協同組合 代表理事組合長 木村敏和	米の需給と価格の安定は、生産者・消費者双方にとって重要であり、競争原理に委ねることなく、需給調整に取り組んでいく必要がある。	文教産建 常任委員会	採択 全員賛成
地方財政の充実・強化を求める請願について	連合山形置賜地域協議会 議長 深瀬裕介	地方財政について、健全な発展をめざし、政府による十分な予算措置の確保に向け、施策の対応を求める。	総務厚生 常任委員会	採択 全員賛成



「次期総合センター整備基本計画」 民俗資料館・老福センターも併設を

こばやし よしみ
小林 嘉 議員

**次期総合センターは
多面的活用施設に**

小林「公共施設管理計画」
が公表された。

内容は、人口が減少して
いく中、現在保有の公共施設
すべてを保有し、改善・更新
していくことは非常に困難な
状況にあるとしている。さら
に今後の人口や財政の将来を
見通したうえで、公共施設の
現状を踏まえ、今後の維持
管理の在り方について基本
的な方針を示している。

次期総合センターを整備
するにあたり、多面的な機能
を盛り込み複合的な施設とし
て、更に効率的な公共施設
マネジメントが必要ではないか。

複合施設

として整備

町長 次期総合センターは
「整備基本計画」に、「人口減
少社会に向けた交流や移住・
定住等の促

進機能」「既存産業の高度
化や新たな地域ビジネス等
の創造機能」「コミュニティ
活動等を通じた地域人財の
育成や交流に係る機能」「
地域文化の継承や創造、芸
術文化の享受機能」の4点
を導入すべき機能として掲
げ、その機能を補完する施
設空間や設備等の考え方を
整理し、複合施設として整
備するとしている。

民俗資料の展示は

小林「白い森くらしの資
料館」の資料は貴重なもの
と思うが、次期総合センター
に資料館機能を確保し展示
していく考えはあるのかど
うか伺う。

ギャラリーの二角に

町長 ギャラリー機能の
設置を計画し、そこに郷土
資料展示コーナーを設ける
。ただし、現在、民俗資料
館に保管されている資料等
を、全てこの展示コーナー
に移設するこ

とは、施設規模の限界を
超えるため、「マタギの郷
交流館」や町内の既存交
流施設をサテライト施設
として位置づけ、閉校舎
も活用しながら郷土資料
のネットワーク化を図る。

老人福祉センターを

次期総合センター内に

小林 老人福祉センター
は、高齢者が集う場とし

て大変重要な役割を果た
しているが施設の老朽化
が激しい。

今後の人口動態や財政
の将来予測を考慮し、次
期総合センター整備計画
に必要な機能として取り
入れていく必要があると
思うが。

高齢者の健康づくり

を検討した

町長 老人福祉センター



白い森くらしの資料館



老人福祉センター

は、町社会福祉協議会が
所有・管理運営の施設で
ある。基本計画策定過程
で、幅広い議論の中で課
題に挙がったが、基本計
画では、高齢者の健康づ
くり支援を担う機能を検
討するものと整理したと
ころである。



公共水道の全戸給水について

伊藤重廣 議員

伊藤 小国町は先人の努力もあり、インフラがほぼ全集落に完備されているが、公共水道や共同水道が整備されていない集落もあると聞いています。どのような状況になっているのか。

町長 上水道は、町中心部と北部地域の一部を給水区域としており、1681世帯、4901人が使用している。

全域に上水道を整備するのは極めて困難なので、上水道給水区域外の地域については、営農飲雑用水や簡易水道の整備で対応してきた。現在、上水道・簡易水道・小規模水道を合計しての給水人口は2005世帯、5803人である。現在整備を進めている上水道針生配水池の完成に伴い、109世帯が新たに給水エリアとなる予定である。

伊藤 集落によっては、

町の支援を受けながら集落水道を作っているところもあるときくが、水質検査等の指導は行っているのか。又、今後共同で水道をつくりたいと言った場合、町はどのように対応するのか。

町民税務課長 県が規制している、山形県飲用、井戸等衛生対策要項で「衛生確保対策に於ける実態の掌握に努める義務」が定められている。平成28年度は抽出した地点に於いて水質の調査をしている。

伊藤 整備されていない所をどうするか。その中でも比較的世帯数の多い松岡と伊佐領がある。伊佐領は平成24年に、数戸漏水したと聞いている。旧小学校の利用も考えれば早急に対応すべきと思うが。

地域整備課長 水不足の

時は給水車で対応した。簡易水道を整備する場合は、水源地の選定や投資経営の検討、また地域全体で組合等を組織し、設置後は全員参加するといったような確約が必要となる。簡易水道事業や

小規模水道事業については、水道法上の規定に加え、整備費の地区負担が生じるので、各地域の実情に応じた対応策となる。

と思うが、地域に周知し対応すべきと思う。又、上水道の整備の難しい地域については、色々検討すべきである。

産業振興課長 活用できる事業などについて情報提供していきたい。



水不足には給水車で対応



安定した給水が期待される

防災対策について



いしやまくみこ 石山久美子 議員

石山 小国町は昭和42年

8月28日の「羽越水害」から50年を迎えた。本年7月には台風3号による九州北部豪雨等による甚大な被害が発生した。当町も同じような災害が発生するのではないかな不安になる。本町における災害対策の具体的な取組みについて問う。

町長 災害予防対策、災害応急対策等の行動指針は災害対策基本法の規定に基づき策定している小国町地域防災計画に定めている。

大雨洪水警報などが発表された場合や災害が発生する恐れがあるとき、また実際に災害が発生したときなど、その段階に応じて、主に情報収集にあたる一次配備から、災害対策本部を設置する第四次配備までの配備基準を定めており、要員を確保し、緊密な連携を図りながら対応することとし

ている。

また町民への周知や行動の伝達は防災ラジオや屋外スピーカーを通して行っている。運用を開始した四月以降、避難勧告や指示等を伝達する段階には至っていない。

石山 「防災ラジオ」は災害時には安全安心の確保のために欠かせないものであるが、一方で、「聞き取りにくい」、「音が大きすぎて驚いてしまう」等の声が聞かれる。対応はどうか。

町長 運用開始後間もなく屋外スピーカーの音量が大きすぎるとの指摘があり、調整した。「防災ラジオ」の音量はそれぞれの家庭で調整ができる。操作が不安な場合は現場に問い合わせしてほしい。

石山 大雨の状況が伝わらず、テレビやラジオから、気象情報や警報など

を確認する状態になっているが防災ラジオで放送できないのか。

町長 大雨警報などが発令されたときは、状況により定時放送の際に警報などの情報をあわせて放送している。

石山 「ハザードマップ」が各家庭に配布されたが活用されずにいる。災害時、特に高齢者は行動が出来ず不安を抱えてしまう、それらを解消するための取り組みを問う。

町民税務課長 自助・公助さらに新しい概念として「近助」の重要性がある。助け合いの力こそが

防災・減災に欠かせないものであり、町では自主防災組織の編成を呼びかけている。現在組織率52・8%、39組織となっている。昨年はあけほの地区で組織化された。

組織率は置賜地区では低い、重要なことは、その地域で災害が発生した時に、自主的にいち早く避難誘導の行動ができることである。

実践的な防災組織を目指し、ハザードマップの活用とともに進めていく。

石山 50年前の羽越水害でわが町に起こったことを子や孫へ語り継いでゆくことも防災教育に大切なことであると思う。経験した災害を忘れない町づくりを目指し、町民総ぐるみの防災対策に力を入れていただきたい。



ラジオがつかぬ町づくり



各家庭に配布されたハザードマップ



サルによる生活被害について NIE教育導入事業について

※NIE…Newspaper in Education(「教育に新聞を」の意)

まみやひさえ
間宮尚江議員

サル被害予防に ロボットの活用を

間宮 大型哺乳類、特にサルの個体群による農作物被害拡大への予防や今後の取り組みを伺う。

町長 サルの出没による農作物被害は、生産者にとって極めて深刻な問題になってきている。

小国町猟友会全会員で構成された「小国町鳥獣被害対策実施隊」を組織し、有害鳥獣捕獲、被害量調査、生態調査を実施している。

狩猟免許、猟銃所持許可の費用の一部を支援している。また、電気柵設置費用の経費補助、追い払い用花火の配布を実施している。

更に、サルと人との住み分け空間確保に注目して、モデル事業として北部地区水田放牧に取り組んでいる。

間宮 長期的モニタリングは必要であると思うが、特に人口減による捕獲の担い手の育成が重要ではないか。

産業振興課長 かつて108名の猟友会会員も、現在は3分の1になり、高齢化になってきている。若手の育成としては、今年みどりの協力隊が会員となってくれた。



サルとの住み分けは可能か

間宮 北海道大学、東京農大、JA、太田精器、行政による追い払いロボット、通称ウルフが7年越しで開発され、成果を挙げている。

町長 先進事例なども参考にして人間とサルとが豊かな自然環境の中で共存している。

NIE教育の浸透を 小中高連携へ

存していける方策を引き続き検討していきたい。

間宮 「教育に新聞を」という取り組みが全国的に広がりをみせているが、本町での小・中・高連携に関わる学習として今後の目標、方向性を伺う。

町長 山形県教育委員会は、都道府県で初めて「新聞を活用した教育現場への支援事業補助金」を創設した。郷土愛の醸成、読解力向上、社会力形成を目的に事業展開している。

教育長 本町の次代を担う児童・生徒が新聞により、多様な情報社会を逞しく生き抜く力、高度情報社会に必要な資質と能力を身に付けられるよう学びの充実を一層図っていききたい。

間宮 幼保児童に対する家庭教育、礼作法教育には写真等により、家庭内新聞教育の果たす役割は大きい。

来年開催のNIE全国大会盛岡大会に向けた取り組み等は、考えているのか。

教育長 始めたばかりの事業であるので、今後検討していきたい。

間宮 一貫教育として小国高校へ新聞購入の支援は考えていないのか。また、国際情報教育、特色ある学校づくりとして「英字新聞」活用策を考えていけないか。

教育振興課長 山形県の進める県立高校の教育課程が第一である。英字新聞は、小中高一貫教育の「国際・情報科」のテーマとしては考えられるので、今後の検討課題としたい。

業は今

クアーズテック株式会社小国事業所

2014年に米国クアーズ社の傘下となり2015年にクアーズテック株式会社に社名を変更した。

社名変更から2年が経つが主要な需要先である半導体関連市場の比較的安定した市況に支えられ、業績は堅調に推移しているとのことである。



従業員 581名(小国町居住率 77%)

(クアーズテック小国事業所単体)

町内関連会社合計 690名

事業内容 セラミックス製品製造他

文教産建常任委員会では、7月25日(火)小国町の中核企業であるクアーズテック株式会社小国事業所と日本重化学工業株式会社小国事業所の視察を行った。両社の現況と課題を聞き取り、議会として支援できる可能性を模索した。

『流通の効率化』

共通課題



中 核 企

安定した企業活動をサポートするために

課題は、両社とも「労働力の不足」と「流通の効率化」であった。

クアーズテックでは、20年前には考えられない事に、近年新卒入社希望者が減少し、採用定員に達していないという。

日本重化学工業も、新事業の開始にあたって労働力が必要な時だが、入社希望者が集まらない状況である。Uターン者の受け入れを積極的に行う一方、外国人労働者を10名受け入れる予定をしている。

若い人が就職して町内に残れるよう暮らしやすい町づくりが望まれている。また就職を絡めたUターン・Iターンの推進にも力を入れる必要があり、情報発信に注力しなければならない。さらに外国人労働者を受け入れている町内事業所もあり、今後は国際的な視点での町づくりも必要になってくるだろう。

また、安心安全で効率的な物流ルートは重要な課題であるため、新潟山形南部連絡道路の早期着工に向け、町民あげて要望していかなければならない。

日本重化学工業株式会社小国事業所



会社更生法申請から15年を経て「合金鉄事業」「機能材料事業」「エネルギー事業」を柱に順調に業績をあげている。今年度は、小国事業所で「機能材料事業」の新たな部門が立ち上がるということである。

従 業 員 178名(小国町居住率 80%)

(小国事業所)

事業内容 機能材料製造他

共通
課題

『労働力の不足』



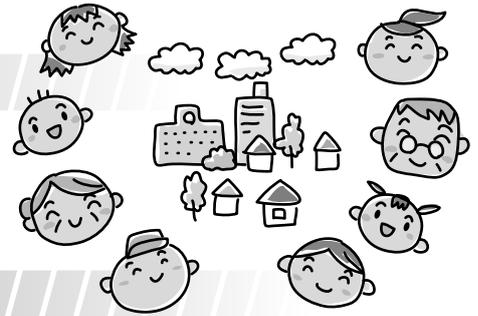
議会活性化調査特別委員会

目 的

町民福祉の増進と議会の責務達成を目的に、議会活動の活性化、議会基本条例の制定等に向けた調査研究を行う。

作業部会構成

委員長 小林 嘉 副委員長 小関 和好
 作業部会 今 康成・間宮 尚江・石山久美子



これまでの取り組み

- * 行政学、行政法、地方自治法を研究されている新潟県立大学国際地域学部 田口一博准教授に講義等をとおり、適宜指導を仰いでいる。
- * 全国市町村アカデミーに、平成27年度2名、平成28年度2名を派遣し全国の議会活性化の情報把握と自己啓発に努めている。
- * 全議員による福島県会津美里町・新潟県阿賀町各議会の視察研修を行った。
- * 作業部会で議会基本条例制定の先進事例として飯豊町議会の視察研修を行った。
- * 平成28年度に「議会報告会」、「高校生議会」を開催した。



平成28年度議会報告会



平成28年度高校生議会

今後の方針

- * 目的達成のために「町民に開かれた、わかりやすい議会」を目指し、基本的な考え方と議会運営を明確化、ルール化する議会基本条例の制定を目指す。
- * 今年度「議員と語る会」「高校生議会」、「高校生との意見交換会」を開催する予定。

総務厚生常任委員会

◎テーマ 民間保育園の現状と課題について(視察)

8月25日(金) すみれ保育園、白百合保育園を訪問



すみれ保育園 園児数110名(定員120名)



白百合保育園 園児数 65名(定員80名)

視察を終えて…

少子化により、定員割れが保育園経営に大きく影響を及ぼしている。

職員(保育士)の不足も深刻である。厳しい職場環境であるが、その中で園児や保護者との繋がりを大切に「おぐにの宝」の成長を見守っていた。

議会としても、子育て環境・保育士の確保など様々な課題と向き合っていく必要がある。

西置賜行政組合議会

1 8月1日より「自動音声ガイダンス」の運用を開始

救急要請受信時、心肺停止時等の対処法を自動音声により案内します。

いざという時にあわてることなく、応急対処が可能となり、救命率の向上につながります。

2 8月7日 災害協定を締結

西置賜行政組合の1市3町1組合と山形県南コンクリート協同組合が火災等の大規模災害が発生した場合、水の供給、その他必要な用水供給の支援を行う。

3 9月1日 ホームページを開設

インターネットの普及により、パソコン等から情報の入手や問い合わせに対応します。

アドレスはコチラ <http://nishiokitama.jp>

※アドレスは直接入力してください。「西置賜行政組合、消防」などでは検索できません。

おらも おぐに町民

町の人からちょっとひとこと

プロフィール

氏名 高橋郁造さん
年齢 91歳
住所 小国町東原



Q 市野々の飛泉寺跡の大銀杏の思いをお聞かせください。

子供のころイチヨウの木で囲んでたくさんの仲間とよく遊んだ。夏には木を囲み、提灯の灯の下で盆踊りをした。

春は淡い緑、夏は新緑、秋は黄一色、冬は雄大な枝ぶりを見せた。暮らしの全てが懐かしい。

Q 横川ダム建設によりイチヨウの木が当初はダムに水没する予定だったそうですね。

市野々地区の大切なシンボルでもあったことから、地元と横川ダム工事事務所の熱意により平成13年から6年の歳月をかけて約1000m南の現在の位置に移植されました。

Q イチヨウ広場がよく整備されていました。

「ふのれと市野々の会」のメンバーが交代でトイレの清掃や雑草の刈り取りなどの管理をしています。

Q 小国町議会に一言お願いします。

町づくりは町民と行政が一緒になって進めていくものと思います。しかし、今、何をなしているのか、どうなっ

ているのか全く伝わってこない。町も広く情報や現状を町民に伝える努力をしてほしい。10名の議員は町民の

声を聴き、自らの意見を出し合って、議論しあつて小国を語ってほしい。動き出してください。



東原に再建された飛泉寺

表紙の説明

今号の表紙は、小国町天然記念物第3号の「飛泉寺のイチヨウ」の木です。

指定年月日

：昭和57年3月31日

所在地：市野々

樹 齢：約300年

樹 高：125m

根 回：7.1m

飛泉寺は市野々にあった禅寺で大正2年火災に見舞われてから平成まで再建されることはありませんでした。寺がなくなった後もイチヨウの木はこの地を見守り続けてきました。

次は12月定例会です。傍聴においでください。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局 (62) 2448

編集後記

今号が発行される頃には、いも煮会シーズンも佳境を超えているでしょうか。「いも煮」の良さは各地域、各家庭で入れる材料が違うところだと思えます。庄内地方は豚肉を使った味噌味なのは御存じでしょうが、小国町では多くの家庭で入れる白菜ですが、他の地域では使いませんし驚かれます。各地の人と「いも煮」談義をするのもまた楽しいですね。

郷土料理に郷土愛が、たくさん詰まっています。

今(記)

発行責任者

議長 高野 健人

議会広報特別委員会

委員長 小関 和好

副委員長 今 康成

委員 石山久美子

委員 間宮 尚江